

# 石炭統制会極秘文書

本資料集は

戦時下(昭和十七年〜二十年)

朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の強制連行による

全国の主要炭鉱(樺太を含む)の詳細な

労務統計と労務管理の実態を示す

極秘内部資料を体系的に収録、編纂したものである

本資料は

今日までそのほとんどが

研究者未見の資料群で

日本政府の朝鮮人強制連行政策や

外国人俘虜に関する

非人道的政策の解明に光を当てる

長澤秀編 / 解説

# 戦時下 朝鮮人 中国人 連合軍俘虜 強制連行資料集

[全四巻]

緑蔭書房

極秘

石炭聯合會所屬炭礦(半島人集團移入炭礦)ニ於ケル内鮮比較

地方別	半島人		合計(A)	内地人(長物不産産除)		坑内夫數(C)	A/B
	現在數	15年度申請數		全職夫數(B)	坑内夫數(C)		
九州	5089	3580	8669	49.18	36914	17.0	
筑豊	2160	2400	4560	111.10	8196	41.0	
肥筑	1431	1010	2441	96.30	7407	25.3	
推薦	8680	6990	15670	70.658	52517	22.2	
計	9468	5790	15258	36.194	28193	39.9	
北海道	1705	1450	3235	105.77	8112	30.6	
常磐	243	350	598	4.079	2965	14.5	
宇部	20176	14580	34756	123.508	91787	28.1	
合計						37.0	

## 刊行のことは

一九四五年八月の終戦時、軍関係や戦時動員等に関する重要書類の殆んどが焼却命令により処分された。当時、重要な国家の基幹産業であった石炭産業を統制指導した石炭統制会の内部文書も例外ではなかった。その存在は、研究者の一部には知られていたが、その所在や詳細な内容については今日までほとんどわからなかった。今回、関係者の御好意により、幻の資料ともいえる石炭統制会文書（一部は石炭鉱業連合会文書）の中より、朝鮮人・中国人・連合軍俘虜に関する資料を中心に編集・複製することになった。

本資料の最大の特徴は、今日まで殆んど知られなかった極秘文書の一次資料で大半が占めていることである。とくに「I朝鮮人強制連行関係統計編」にもみられるように、従来統計資料が少なかった一九四二〜四五年の戦時下の全国各炭鉱ごとの豊富な労務統計は今回初めて明らかになった。しかも、朝鮮人をはじめ中国人・連合軍俘虜の各鉱夫の配置・移動など様々な調査項目ごとに細かな統計を収録している。

「II朝鮮人強制連行関係文書編」では、各石炭資本の朝鮮人労務管理に関する文書を収録している。とくに南樺太における文書は、樺太の炭鉱における朝鮮人鉱夫の統計の実態を初めて明らかにした貴重なものである。

「III中国人強制連行関係」は、中国人「移入」に関する実務的な一次資料を中心としたもので、多くが新資料で構成されている。中国人強制連行が国策として周到に準備、実施されていたことがわかる。

「IV連合軍俘虜関係」は、南方戦線から国内に移送されてきた俘虜が産業労働者としていかに強制されたか、大手石炭資本下での俘虜の取り扱いや労働の実態に関する一次資料を収録している。

以上のように本資料は、第一に戦時下の朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の強制連行研究にとって数量的裏付、実証的な参考資料として多大の貢献をなすものと考えられる。更に、日本石炭産業史研究においても戦時下の労務統計の空白を埋める貴重な資料であり、労務管理史研究、地方史研究の参考資料ともなるなど、幅広い分野での活用を望む次第である。

三菱上山田炭鉱富士寮(福岡)



一九四二年三月、  
朝鮮人鉱夫才二期生入社



# 本書を推薦します

## 琴秉洞

(朝鮮大学校講師)

石炭統制会は、日本のアジア侵略戦争が緊迫化・深刻化した一九四一年に設立された。経済全般の国家統制を強化する必要性の一環として生れたものであるが、政府のアジア侵略を、重要なエネルギーである石炭の増産と配分等の面で支える政策的実践でもあった。この石炭統制会の主要事業の一つに労働提供策があり、朝鮮人労働者の大量動員、つまり非人道的な朝鮮人強制連行も含まれるのである。

戦後、朝鮮人強制連行問題の研究は、かなりな程度すすんだが、石炭統制会の連行関連資料は、そのほとんどが極秘と印された文書で、今まで全くと言ってよい程、世人、研究者の眼に触れることがなかった。

このたび、その極秘資料が長沢氏の永年の資料収集の結果として公表されることになるが、この石炭統制会資料は、今、全国各地で進められている朝・日合同の強制連行調査事業へのはげましになるだけでなく、専門研究家にとっても大きな恵みとなるものであり、ひいては日本政府の朝鮮人強制連行政策や中国人などの外国人俘虜に関する非人道的政策の解明に光を当てるものとなるであろう。長沢氏の永年の労を多とし、ひろく江湖に推奨する次第である。

## 山田昭次

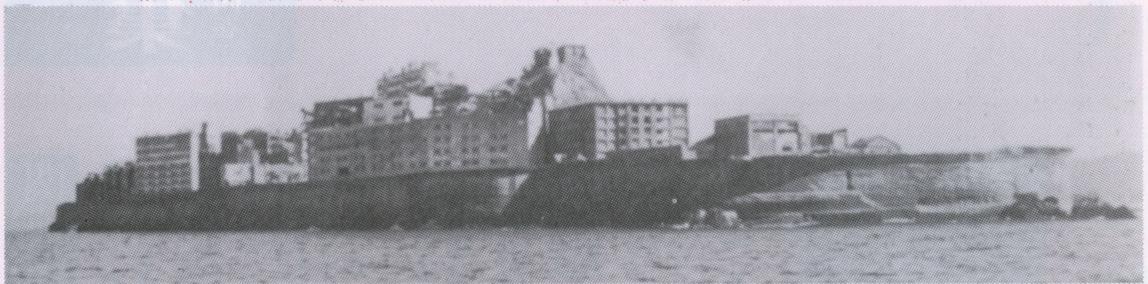
(立教大学教授)

朝鮮人、中国人強制連行史研究は、強制連行された本人、またはその遺族の日本政府に対する謝罪と補償の要求やそれに応えようとする日本人の植民地支配責任意識、もしくは戦争責任意識と内面的関連を以て、現在急速に発展しつつある。

この研究の発展のためには、いうまでもなく関係者からの聞きとりに資料の発掘が必要である。ところが、史料の発掘はなかなか困難である。なぜならば、もともとこれら文書が極秘文書である上に、敗戦直後に責任の追求を恐れた政府、企業は資料の多くを焼却したからである。残された史料もなかなか公開しようとはしなかった。

今回刊行される長沢秀氏編・解説「戦時下朝鮮人・中国人・連合軍俘虜強制連行資料集」全四巻は、ねばりづよい同氏にしてなしえ

端島・車橋島(長崎)



た労作であり、朴慶植氏や林えいだい氏らが編集した強制連行関係資料集に続くものである。多くの方々にご利用されることを期待する。

## 樋口雄一

(神奈川県立文化資料館)

強制連行労働者の重要な部分は炭坑・鉱山に配置されたのであるが、肝心な戦期末の全国状況が不明で、実態を把握するうえで大きなさまたげになっていた。個別企業の経営資料で、その企業のみ部分的資料は一部発掘されてきたが、この文書のように石炭統制会という中央機関がまとめた数字は初出できわめて貴重である。さらにこの統計に照応する労働者管理関係文書は、この問題の政策的意図を明らかにするものであり、強制連行の研究を論理的に展開される基礎資料といえる。中国人、俘虜関係文書はこの問題が単に朝鮮問題の一部としてでなく、広く日本の戦時体制下の労働状況を解明する上で必要な資料群となっている。さらに本資料群は資料の散逸の激しい経済史、経営史(社史)、地域史といった分野でも活用できる性格をもっている。とくに最近、活発になっている地域史の編さんでは初めて明らかにできる事実が多数含まれていることが注目される。

## 朴慶植

(アジア問題研究所長)

編者長澤秀氏は一九七七年に修士論文で常磐炭鉱の朝鮮人労働者問題を取り上げてからその後一貫して在日朝鮮人関係の資料収集および研究をつづけてこられた。その主なものは氏の所属する研究会誌「在日朝鮮人史研究」に発表してきている。

この度、氏の編集で刊行される「戦時下朝鮮人・中国人・連合軍俘虜強制連行資料集」は朝鮮人関係のみならず、中国人、連合軍俘虜関係をも含まれており、これまで出されている資料集にはあまり見られない石炭統制会の資料を中心として、地域的に、具体的な労働員・管理状況などを系統的に収録している。これらの資料が公開されることによって、これまでの強制連行に関する研究は勿論、さらに日本の石炭産業史研究にも大きく寄与することと思う。

長年、高校、予備校教師の傍らこれらの資料収集・研究は氏にとって容易なことではなかったと思うが、氏の今後のさらなる研究業績の結果を祈りつつ、同学の一人として敢えてここに推奨する次第である。

# 収録資料一覧

## I 朝鮮人強制連行関係「統計編」

- 石炭鉱業連合会関係(昭和15年3月～15年9月)
- 炭鉱労務者移動調(昭和16年6月～17年7月)
- 全国炭鉱労務者移動状況調(昭和16年4月～21年3月)
- 鉱山局別労務者数調(昭和17年4月～19年11月)
- 半島人労務者供出状況調(昭和18年1月～19年3月)
- 主要炭鉱朝鮮人労務者就業状況調(昭和19年1月)
- 労務者構成率(昭和16年12月～19年4月)
- 全国炭鉱勤労者構成種別月末在籍数調(昭和17年～19年)
- 労務者月末在籍数並二確保目標(昭和19年4月～12月)
- 主要炭鉱勤労者事由別解雇調(昭和18年～19年)
- 昭和一九年上半期炭鉱労務者解雇者数調
- 労務者移動状況調(昭和18年5月)
- 県別炭鉱労務者移動調(昭和18年6月～9月)
- 労務状況速報(昭和18年10月～19年7月)
- 雇入解雇及就業率調(昭和19年8月～10月～12月)
- 主要炭鉱給源種別現在員表(昭和19年7月～9月)
- 炭鉱労務者旬末現在数調(昭和19年8月～20年1月)
- 昭和二〇年四月末労務者現在数
- 炭鉱労務統計表(昭和18年9月)

## II 朝鮮人強制連行関係「文書編」

第二回労務担当者会議々事録(昭和15年7月)  
移入労務者問題打合せ事項(昭和17年)  
移入労務者訓練及取扱要綱

北海道炭鉱視察報告(労務状況下所見、昭和17年8月)  
中鶴大正鉱業・半島労務管理見学ノ記(昭和17年12月)  
柳形炭鉱ノ半島人労務管理ヲ見ル(昭和18年4月)  
朝鮮人労務管理研究協議会開催要綱・佐渡鉱業所  
半島労務管理二付テ(昭和18年6月)  
樺太関係(昭和19年8月・9月他)

勤労者輸送計画表  
供出炭鉱労務者ノ受入炭鉱別数調  
樺太釧路転換勤労者受入数調  
樺太釧路整理炭鉱勤労者転出先調  
労務状況調 他  
微用関係(昭和19年)

朝鮮人労務者内地送改善強化概要  
契約期間満了朝鮮人労務者月別調  
満期帰郷朝鮮人労務者数支部別一括表  
朝鮮側トノ折衝措置計画案  
内地送出半島勤労者ノ援護実施細目 他  
石炭鉱業労務二関スル提出書類(昭和17年11月)

## III 中国人強制連行関係

苦力使用二関スル件(昭和17年10月)  
華人労務者移入二関スル件(昭和17年12月)  
華人労務者第一次対日供出実施細目(昭和18年)

華人労務者内地移入二関スル件(昭和19年4月)  
囚人使用ノ件(昭和19年4月)

華人労務者内地移入割当三関スル件(昭和19年5月)  
第二・四半期華人労務者割当三関スル件(昭和19年6月)  
日華労務協会扱華人労務者移入二関スル件(昭和19年)  
契約書、華人労務者対日供出実施細目(昭和19年)  
華人労務者賃金基準

華人労務者帰国取扱要領(昭和19年)  
三井鉱山華人移入ノ状況(昭和19年)  
北支華人俘虜使用炭山見学報告(昭和19年2月)  
対日供出二関スル指示・注意事項(昭和19年3月)  
華人劳工使用上ノ参考(昭和19年3月)  
華人労務者就役状況(昭和19年4月)

## IV 連合軍俘虜関係

俘虜使用要領  
俘虜ノ特性ト労務管理ノ参考  
磐城炭鉱ニ俘虜派遣使用ノ件  
派遣俘虜取扱規則二関スル対策ノ件  
俘虜使用希望調査二関スル件  
俘虜主食日量ノ件  
宇部地方ニ於ケル俘虜取扱ノ細目決定二関スル件  
俘虜処罰法二関スル件  
俘虜及華人労務者状況月報々告二関スル件  
東京俘虜收容所派遣俘虜二関スル指示  
俘虜取扱細目等改正二関スル件

石炭統制会極秘文書

# 戦時下 朝鮮人強制連行資料集

朝鮮人  
中国人  
連合軍俘虜

[全四巻]

長澤秀編・解説

## 各巻の構成

### I 朝鮮人強制連行関係「統計編」

▼収録史料 二十件 三四四頁

### II 朝鮮人強制連行関係「文書編」

▼収録史料 四十数件 三八四頁

### III 中国人強制連行関係

▼収録史料 四十数件 三六八頁

### IV 連合軍俘虜関係

▼収録史料 百数件 四八〇頁

## 体裁

B5判上製／クロス装函入／一五七六頁  
揃定価八二、四〇〇円

ISBN4-89774-207-2 C3021 P82400E

●定価には消費税が含まれております。

## 関連図書のご案内

●戦後、日本人の脳裏から完全に消え去った

「朝鮮人抑圧・統制組織」の実態を史料により解明！

## 協和会関係資料集 [全四巻]

本資料集は、日本の国家・国民が在日朝鮮人に対して行なった皇民化政策(創氏改名・日本語の強要・神社参拝・国旗掲揚・軍時献金・徴用・徴兵など)の実態を明かす基礎史料を初めて集大成したものである。

樋口雄一編・解説／揃定価六九、〇〇〇円

●新聞等で連日報道された、  
陸海軍関係の極秘内部資料六十数点を収録！

## 戦場日誌に見る

## 従軍慰安婦極秘資料集

「従軍慰安婦」に関し、日本政府はこれまで軍の関与を全面否定してきたが、今日「謝罪」せざるを得なくさせたのは、本書に収録された従軍慰安婦に関する客観的な軍資料の存在が明らかにされたからである。

琴秉洞編・解説／定価一六、四八〇円

## 〔近刊予告〕

●日本の植民地下における初めての体系的な皇民化資料

## 朝鮮皇民化政策資料

宮田節子編・解説

## 台湾皇民化政策資料

近藤正己編・解説

緑蔭書房

〒173 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

購入申込書	戦時下朝鮮人・中国人・連合軍俘虜強制連行資料集	書店名
	セット注文します ご芳名・ご住所	